

窓口支援事例 【徳島県 知財総合支援窓口】

企業情報

いちかけ（阿波踊り用品製造・販売）			
所在地	徳島県勝浦郡勝浦町大字生名字野口 13-1（健心整骨院内）		
ホームページ URL	http://www.shokokai.or.jp/36/363011S0002/index.htm		
設立年	2015年	業 種	製造業
従業員数	2人	資本金	

企業概要

徳島県の勝浦町というところで、2006年から整骨院を運営しておりますが、「ものづくり」にも強い関心と興味があり、これまでいろいろな物を試作して参りました。2014年から今回の製品（阿波踊り用の足袋と下駄のセット）の試作を開始し、昨年製品として完成・販売を開始いたしました。屋号の「いちかけ」は、阿波踊りの女踊りで使われる掛け声（一かけ二かけ三かけて、しかけたおどりはやめられぬ・・・）から名付けました。

自社の強み

私自身が徳島県阿波踊り協会所属の葵連に所属して毎年乱舞しています。そのなかで踊り子の女性から「せっかくの阿波踊りなのに下駄の鼻緒が痛くてうまく足が出せない」「痛みのせいで笑顔がゆがんでしまう」「足の指の付け根にメメができたり、爪が剥がれてお気に入りのサンダルが履けなくなる」などの悩みを聞き、それを解消するために本製品を作りました。地元の阿波踊りをいっそう盛り上げるために今後も便利な阿波踊り関連商品を開発していきたいと考えています。

一押し商品

当社の一押し商品は、もちろん阿波踊り下駄「楽踊美人®」です。阿波踊り（女踊り）特有のつま先立ちに近い足運びがもたらす、鼻緒が指の付け根に食い込んで痛いや足指が地面に接地して爪が痛いという悩みを解決する画期的な商品です。下駄と足袋に工夫を施すことで、楽に踊れるようになりました。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

初めて当窓口に来訪されたのは、2012年でした。今回の相談とは別の器具を発明されており、その特許出願の相談でした。結局そのときには特許出願には至りませんでしたが、今回の発明を契機に再び2014年の阿波踊りの季節の前に、別の発明で相談したいと電話があり、窓口に来訪されました。

最初の相談概要

来訪時に、今回発売されている下駄と足袋の試作品を持参され、権利化の相談を実施しました。類似品があるかどうかについて、IPDL（当時の特許電子図書館、現在は特許情報プラットフォーム）での検索支援を行いました。検索結果から、着脱式の靴などの類似特許が数件ヒットしたため、特許性を含めて専門家を活用することとしました。

その後の相談概要

その後、類似特許との比較や権利化の範囲などについて専門家相談（弁理士／2回）を行い、特許を出願しました。特許出願後は、製造（委託も含む）や販売についての相談を数回行ったのち、ある程度販売の目処が見えてきた時点で商標登録出願の相談と販売戦略の相談（中小企業診断士）も行い、2015年7月に販売を開始しました。

窓口を活用して変わったところ

いろいろなアイデアを試作することはいまでもされていたようですが、製品化するのは今回が初めての経験でした。このため苦労されたようですが、製品化を通して、製造や交渉、販売計画の策定など製造業に必要なプロセスを経験できたことは今後の新商品の開発販売にも繋がっていくのではないかと考えています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

自身で製品を製造・販売するという経験はいままでなかったため、販売までに随分と時間がかかってしまいましたが、権利化の相談から始まり、製造委託や販売のことなど都度いろいろと相談させていただきました。専門家の相談（弁理士・弁護士・中小企業診断士）も無料で受けられますし、関連する支援機関なども紹介してもらえます。是非みなさんも利用されてみてはどうでしょうか。

窓口担当者から一言（氏名：青木幸司）



はじめて製品を見たときに、「そういう解決策があるのか」と驚いた記憶を鮮明に覚えています。特許出願による知財の確保から始まり、部材の委託製造、製品の改良などを経て本年発売となりました。来年にはこの下駄と足袋が多くの踊り子さんの足を支えてくれることを期待しています。